



## 第8回チャレンジドカップ 審査員特別賞 受賞!!!



昨年12月9日、第8回チャレンジドカップの決勝大会が横浜の製菓学校にて行われました。この大会は障害者によるパン・焼き菓子の日本一を決める大会で、風の作業所のこすもす班が、焼き菓子部門に看板商品の「スコーン」で挑戦しました。全国47チームの応募から1、2次審査を突破したパン、焼き菓子部門の各8チームが会場で実際に作り競いました。

当日の大会に出場したメンバーは村上祥子さん、岩田ななみさん、柏木宏恵さん、鈴木権大さんです。決勝大会への進出が決まってからは、当日を見据えた練習を班内で重ね、直前には緊張感を出すために審査員に見立てた見学者がいる中で作る練習も行いました。本番の菓子作りがはじまると、あちこちから「〇〇チーム計量を開始します!」といった掛け声が飛び交い、私たちも少し圧倒されながらも声を出しながら練習通り作業を進めました。いつもと違う環境、そして、たくさんの人に見られながら作業をすることは、私たちが想像する以上のプレッシャーであったはずですが、そんな状況でも「いつも通り」のスコーン作りができたことには、驚きと素直に嬉しかったのです。

こすもす班で日頃大切にしてやってきていることは、『利用者が主体となって菓子作りを行うこと。一人一人の役割が班全体の作業に繋がっているということ。』である。審査員の方からこんな感想をいただいた。「みんな障がいの程度がちがうのだから、審査員はそこを見ないといけない。健常者にとって簡単なことでもすごく一生懸命。車椅子の人でも一生懸命でできることをやろうとしていたことに感銘を受けました。そういう人に施設の人が我慢強く教えていることにも頭が下がります。僕だったら、思わず手がでちゃうよ」

職員としてチャレンジドカップへの参加で日頃大切にしてやってきていることを伝えられた思いで胸が熱くなった。週明けの月曜日、朝会で審査員特別賞を受賞したことを報告した時には、自信にあふれた表情と、でもだからこそ「金メダルがほしかった」と次へ気持ちを向けている姿が見られ得たものの大きさを感じた。

あさやけ風の作業所 石川 聖子

車椅子の人の参加は初めてと聞いて、たくさんの方々に作業を見てもらうことは緊張した経験でしたが、みんなと協力しながら作業が出来て、審査員特別賞も頂けてうれしかったです。

岩田 ななみ

少し緊張したけど計量を上手に出来た。またチャレンジドカップに出場して金メダルを取りたいです。

村上 祥子

